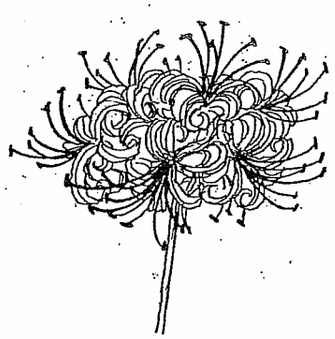
緑のまちあれこれ

○　8月 30 日、文化財保存全国協議会の代表委員十菱先生や常任委員の勅使河原先生ほか8名の方々が外環関連遺跡調査で発掘された北下遺跡（国分バス停すぐ上）や道免き遺跡（堀之内貝塚の南側低地）などの視察に見えました。当日は外環連合の高柳さんほか市内からも 10 名が参加しました。つぎつぎと遺跡をのぞく秋の風　愛子

○　この夏の日本列島を見舞った猛暑は、全地球的な異常気象の一環だったらしい。北氷洋の氷塊の急速な溶融、シベリアの永久凍土地帯の気温上昇、エベレストやアルプスの氷河の減退、ギリシアの山火事をはじめ、北半球ばかりでなく、オーストラリアの旱魃、カリブ海の大型ハリケーンなど、列挙したらきりがない。因果関係の本格的な解明は今後の課題だろうが、これらの現象が地球人類の節度なき環境破壊への自然の逆襲だとしたら空恐ろしい　　(M)



○　町を歩いていると、このところ家屋の取壊しや建直し、それに更地になった空地が気になる。古い人には馴染みだった永幸マーケットのコンビニがなくなるし、大橋の丸山幼稚園は移動したのだという。保育園といえば、愛宕神社下のサカエ保育園が大池の警察寮跡地に引っ越す予定だという。もう基礎工事が始まっているから、春までには完成し移ることになるのだろう。

○　10 月 21 日（日）午前 11 時から、じゅんさい池での健康まつりに、緑のまち合唱団が出演します。国府台病院は、国立病院としての存続が決まったようでなによりです。産婦人科・小児科診療の病院不足が叫ばれている昨今です。眼科や耳鼻咽喉科といった専門科目の揃った総合病院がなんとしても近くに欲しい。少子老齢化の進んだ日本の悲しくもお寒い状況は、政治の力でできるだけ早く解消してもらいたいものだと思います。

■編集後記■　小塚山トンネル工事近辺の人たちの実情が深刻です。市は市民のためにもっと積極的に国に交渉していただきたいものです。特別委員会の決議でも住民最優先の方針は示されていたはずです。市議会での予算措置を含めて市独自の救済策も視野に入れておかないと、今後菅野など市街地中心部を貫通させてでも外環を通そうという市の政策に矛盾する結果が生じてくるのではないのか。早急に市の誠実な対応を望みます。

緑のまち
―北国分だより―

第 83 号　　2007.10.15　発行

編集　　北国分外環対策協議会
市川市北国分 3-7-5　　三好方
Tel　047-372-7898

北国分外環対策協議会総会　報告

8月4日小塚山研修所で総会が開かれ、15 名が参加しました。はじめに 5 月に永眠された三宅佳子さんのご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。

事務局からの活動報告ならびに会計報告に続き、新年度の事務局担当者を選出し、議事は承認されました。

これまで事務局や会計責任者としてご尽力くださいました朝倉かつ子さんが新年度への継続を辞退されました。長い間お骨折りいただきまして有難うございました。

<事務局>　越田常義（代表）　三好美智子（連絡先）　佐々木陽子（会計）
中村祐三　　松林マサ子　　［会計監査］竹内庸悦

《活動についての話し合い》

外環運動を広く地域の人たちに知っていただくためにも、「緑のまち」の発行を継続していきたい。

小塚山の緑を守りたいという願いから 16 年前からスタートした森の音楽会を通して外環運動への理解や協力が得られるようにしていきたい。

小塚山の樹木の伐採や地表面の掘削により、生態系が変わってしまい、猛禽類を含めた野鳥の種類や数が大きく減少している。バードウオッチングは運動の一環として継続していきたい。

《フリートーキング》

小塚山トンネル工事により現に起きている被害について懇談。対策協議会が 7 月 17 日に市に提出した要請書に対し、7 月 25 日に外環推進課からの回答書に「苦情もなく工事を進めています」という文言があり、これは住民の深刻な訴えとは大きく異なるため、現地を見に来てもらうよう市に再度要望することにしました。小塚山トンネル工事は、近隣住民の納得を得られるレベルに影響を抑えるのでなければ、認められないと公害調停で申し立てています。

小塚山トンネル工事被害についての話合い

住民の合意がないまま 24 時間体制でのトンネル工事が着々と進んでいます。市当局や事業者は付近への配慮は十分にしているといっていましたが、工事地点のすぐ近くに住んでいる人たちの被害は深刻です。8 月 9 日、小塚山研修所に市の外環推進課の福田課長ほか１名の参加を得て、近隣住民 19 名との話合いをもち、実地での被害状況の調査も行いました。当日は外環連合の高柳さんも参加して、住民の切実な声を反映させるよう強く求めました。

<被害の内容>

○　住宅地の直近（1m くらい）を朝 8 時ころからひっきりなしに大型トラックが通り、砂ぼこりを立て、騒々しくて危険。ストレスがたまって家に居られない。

○　騒音、振動がひどく、窓を開けておくと、電話やテレビの音も聞こえない。排ガスも心配でならない。

○　24 時間工事で、夜間も低周波振動などで、眠れない。

○　地盤がゆるんだせいか、庭の所々にくぼみができたり、湿気で壁や床下が湿ったり、車庫の壁や石塀に水が浸み出したりしている。

○　新たな工事を予定している小塚山緑地の排水対策、土砂崩れ対策は十分とはいえないのではないか。

この問題については９月８日の「市川よみうり」に、「工事車両の通過で騒音・振動被害」「北国分・東京外環道路小塚山トンネル工事区間」として取り上げられ、住民は国に自粛要求　市も対策の必要を認識と報じている。北国分外環対策協議会としては、周辺住民に迷惑を掛けないようにするための工事用道路が住民の近辺に敷設されていることが問題だとして、住民無視の姿勢を批判し、市に対して、8 月 14 日に要望書を提出。市川市と事業主体である国土交通省、工事事業者に対し、小塚山トンネル工事を、根本的な問題が解決するまで工事を自粛することを求めている。

《要望事項》

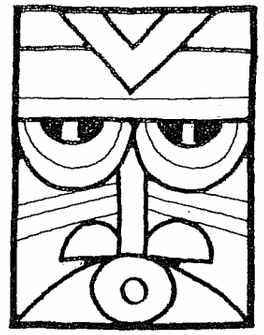
工事用道路を周辺住宅から十分な距離をとって設けるなど根本的な対策がとられるまで、大型車の通行原因となる工事を自粛するよう事業者に求めること。

今後、どの時期にどの程度の大型車通行量が予測されるか明らかにし、それに応じた根本的な騒音・振動対策を事業者側に求めること。また少なくともそうした措置がとられるまで新たな工事着手を認めないようにすること。

騒音・振動のモニタリング地点を見直し、増設するとともに住民が以前から求めているように工事中は騒音と振動を常時観測し、生データを公開するよう事業者に求めること。

第2回　公　害　調　停　　9月6日

第２回公害調停には住民 25 名が参加して千葉県教育会館で開かれました。前回被申請人（事業者）が調停委員長から課せられていた答申（千葉県環境影響評価審査会）の実施状況については明確な回答は得られませんでした。しかし答申はほとんど実施されていないことが明らかになりました。



調停委員長は、今後申請人（住民）には、質問を具体的に、被申請人には回答を具体的にするよう求めました。

小塚山トンネル工事被害に関しては、現地の状況視察・住民（申請人）の意見聴取を行うよう調停委員会に要請してあります。

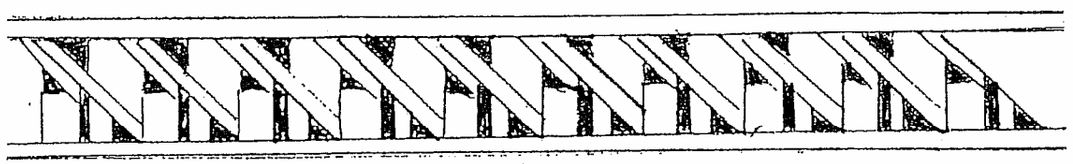
第３回の公害調停は 11 月 15 日（木）です。

〔歴史ひとくちメモ〕

市川が震源だった安政地震（152 年前）

「天災は忘れた頃にやってくる」とは物理学者寺田寅彦の名言。大正 12 年９月１日の関東大震災は、首都圏に住むものには忘れようがないが、江戸末期の安政２年（1855）11 月 11 日（旧暦 10 月２日）に起こった安政地震が、江戸川下流、市川周辺を震源地としていたことをご存知だろうか。

直下型地震で、被害範囲は狭かったが、民家のつぶれ１万 4000 戸、町方の死者約 4700 人、武家方・寺社方を含めると死者は１万人強とされている。この地震で水戸藩下屋敷（小石川）にいた藤田東湖が圧死したのは有名。



30年後の北国分

K.　N.　生

これは北国分の空想的未来設計図です。小塚山トンネルは鉄道が通っています。松戸から菅野に通じている電車です。すでに成田まで開通している北総鉄道は羽田まで直通で、京成のスカイライナーより便利だと好評ですが、松戸と市川方面へのアクセスは不便でした。小塚山トンネルは、もともと東京外環の高速道路のトンネルでしたが、車社会に変化が起こり、ガソリン車は廃止され、動力源として水素ガスと電気エネルギーになって、流通手段としての大型貨物トラックは時代遅れになり、輸送の基本は鉄道と船と航空貨物便に代わられてしまったのです。市内の交通は、外環道路は無用の長物となり、国道と一般道が、それも低公害車が音もなく走っています。ひところの渋滞混雑はなんだったのでしょうか。高速自動車道は乗用車での、もっぱら長距離移動に使用され、資材の運搬には専ら船となり、東京湾では多摩川・江戸川が利用されて工業地帯への原料および製品の搬送に使われます。市川は、その意味でも流通の一つの拠点となっているのです。

小さな政府を目指してきた流れで、中央官庁は縮小され、内閣官房、総務省、外務省、環境省と防衛省だけが存続するほかは、すべて道州政府に権限を委譲したので、国家予算の大半は州独自で行使することになります。JR 八幡や市川周辺は商業エリア、湾岸道路と京葉道路に挟まれた南部地域は工業地帯、大町や大野は農業生産エリア、国府台は文教ゾーンで学校・スポーツセンターが集中します。江戸川は自然堤防に改修され、港湾施設は、行徳、市川広小路、松戸、流山、関宿に整備されています。矢切の渡しだけではなく、水上バスが江戸川を波を切って走ります。北国分は堀之内貝塚・小塚山を中心として、じゅんさい池・江戸川緑地・里見公園へと連なる市川の緑のエリアとして位置づけられ、夏には道免き谷津に蛍が飛び、メダカやオタマジャクシをすくおうとする子供たち、小塚山では、カブトムシを採ろうと集まる子供たちの声で賑わい、アカゲラやフクロウをはじめ野鳥たちが繁殖期には巣づくりします。森の日だまりには都内の喧騒を離れて郊外に安らぎを求める人々が散策し、歴史・考古博物館の近くに新設された“道の駅堀之内”では買い物客や子供たちで賑わいます。足を延ばして、真間や菅野の文学散歩、国分寺や法華経寺の歴史探訪ツアーの人たちで市内のレストラン・喫茶店も活気が出てきました。

市内の地域棲み分け方式の徹底実施で、工場騒音も振動も排気ガスも抑えられ、温暖化現象も制御されてきました。最近では、都心の高層マンションからUターンして、土に親しむ生活に舞い戻るお年寄りも多くなったとか。地方自治を遂行するという観点から、市役所や市会議員だけに委ねるのではなく、市民が行政に参加できる都市生活計画委員会を市も設置すると言っております。

《飲むこと　食べること》⑳

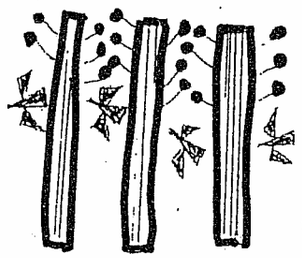
市川の梨

佐々木　陽子

今、スーパーの売り場には、色とりどりの秋の果物がならんでいます。その中で色は地味ですが、甘くさわやかな「梨」が私の大好きな果物の一つです。

私の母の実家が市川市宮久保にあり、子どもの頃、毎年夏には出かけて、家の裏山に広がっていた梨畑を、虫取り網を持って走りまわった思い出があります。あぶらぜみの鳴き声がうるさい程聞こえる中、手の届きそうな所に、大きな梨がたわわに実っていたのを覚えています。そして帰りにはたくさんの梨をおみやげにもらったものです。

現在、北国分の梨畑も減り、市川の梨はブランド品になり、私達が手頃に食べられなくなったのは残念ですが、地元産のおいしい梨をもっとたべたいなあと思ってしまう私です。



探鳥会の日程

――北国分地区バードウオッチング――

平成19年 12月2日（日）　午前10時　小塚山あずまや集合
20年2月17日（日）　～12時
20年4月29日（休）

松戸市矢切地区バードウオッチング

平成19年11月17日（土）午前10時　野菊の墓文学碑前集合
20年1月19日（土）　～12時
20年3月15日（土）

バードウオッチングは、鳥の声に耳を澄ませる安らぎの時間。北国分は小塚山からじゅんさい池まで、松戸は江戸川沿いに歩きます。どうぞおいでくださいますよう、お誘いいたします。

（村岡幸生）

市川の縄文時代の自然環境

西畑　健一

今から4000年前、市川の堀之内や曽谷、柏井、大町の台地にはナラやクヌギの森が拡がり、ニホンジカやイノシシが数多く棲息していた。秋になるとドングリがたわわに実り、鳥や獣たちは木の実をあさり、冬を越す準備をする。

獣たちだけではなく、ドングリは縄文人たちにとっても重要な食糧だった。ドングリを粉にして水にさらし、アクを抜いた澱粉を、魚や肉、乾燥した山菜や茸と一緒に土器で煮込んでドングリ粥にして食べていたからである。

台地の下は海が開けていて、遠浅の砂浜ではハマグリが大量に獲れた。縄文人たちは獲った貝を丸木舟で台地のムラに運び、土器で煮て食べ、捨てた貝殻が貝塚となって残った。

大量に獲れて余ったものは干貝にして保存した(旬の山菜や茸もゆでて乾燥し保存した)。

2000年前ころから気候が寒冷化して、ハマグリも次第に少なくなった。さらに生活のための自然破壊が進み、後背地の森に変化が生じ、獣たちは山深く入ってしまった。食糧が少なくなると、人口増加に制約が加えられ、市川の地域から他所に移動するようになった。弥生時代の初め頃（関東では紀元前後）には、市川を含めこれまで貝塚文化で栄えた東京湾沿岸の人口は急減することになる。

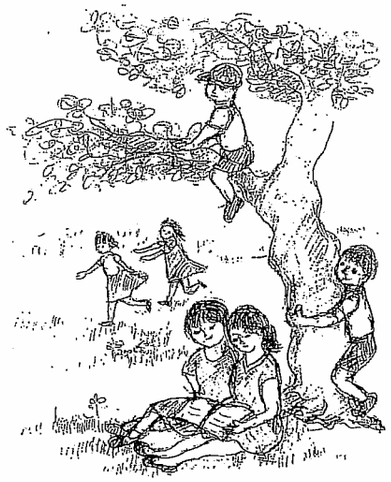
つまり市川に大型の貝塚が多くつくられたのは、背後にドングリなどの実る森があり、そこには獣や鳥や昆虫がいた。そして湧水が豊富な台地に住居を構え、水路で川に出、海に通じる交通路があった。獲った貝や魚は丸木舟でムラに運んだ。

当時は食糧の確保が第一で、住まいはそうした条件が満たされなければ確保できない。しかも市川では、少なくとも二千年以上にわたり、湧水が枯れることなく流れ、森があり、海に近い豊かな自然の環境が継続されていたのである。

大型貝塚は、一時に多く人がいたのではなく、長い期間にわたって人が住み続けていたから、あのような大量の貝殻が堆積して貝塚になったことを思わなくてはならない。

栞を片手に（8）

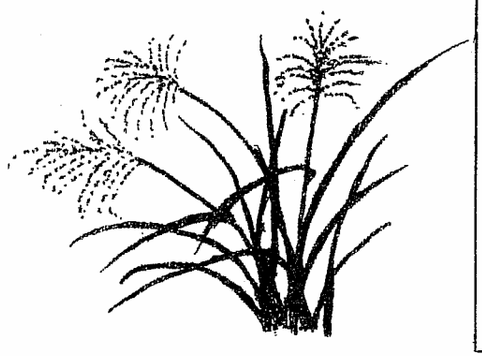
稲見　由美



風の変化で季節を告げ、太陽と星とが時を刻む緑の懐での“足るを知る”生活……。百六十年前に、詩人博物学者がボストン郊外のウォールデン湖畔の山小屋で送った自給自足の日々（ソロー「森の生活」岩波文庫）は、物と情報に溢れた生活に慣れきった２１世紀の私達にとって、旧き良き道標となるでしょう。携帯電話やインターネットのない時代に、再び戻ることが出来ないとしても。

雨が止むのを待ち、稔りの日を待ち、地の恵みに感謝する生活。美しい詩の一篇や哲学者の言葉をかみしめ心通う友らと語らう夜。そして雑踏から遠く離れた孤独と静寂が紡ぐ豊かな時間。仮想空間を通じて絶えず誰かと繋がっていなくとも、自然や人と確かに結ばれている安心感がそこにはあります。炉で音を立てて燃える炎を見つめれば、人の行くべき道がくっきりと浮かんできたことでしょう。

秋空の下、時には森の小道を辿って帰りましょう。キャビンの窓に明るいランプを灯すために。心の中のウォールデンへ。



●国府台小学校　ふれあい祭り●

みんながチャレンジャー

10月27日（土）12:45～14:45開催

午前は児童の学習成果を発表するオープンスクール。午後はお祭り。児童によるクラブ活動の発表や展示もあります。

地域の皆さま、どうぞお気軽に足をお運びください。